

平成 29 年度第6回 歴楽講座



江戸開府前後の謎と東葛

主催：手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会

永禄3年(1560)桶狭間合戦で織田信長軍が今川義元軍を破ってから、「天下一統」へ向けて時代は動き、やがて織豊政権の樹立により、戦国時代は終わりを迎えます。

その間、関東では後北条氏が勢力を伸ばしていましたが、天正18年(1590)の豊臣秀吉の小田原攻めで後北条氏は戦国大名としては滅び、代わりに関東は徳川家康に支配され、やがて江戸に幕府が開かれます。

この江戸開府前後の時期は、謎も多いです。徳川家康とその配下の三河武士たちは、小田原でも鎌倉でもなく、江戸を拠点とし、三河や周辺から人を集めて江戸を整備しました。家康は小金を息子武田信吉の領地とし、船橋に自らの御殿を置きました。東金御成街道も家康の命により作られました。後北条氏が歴史の表舞台から消えた後、東葛地域の高城氏やその家臣たちはどうなったのかを含め、少し考察したいと思います。

本土寺にある武田信吉生母於都摩の墓(左)、
松戸の松龍寺(中)、船橋御殿跡に建つ東照宮(右)



🍇 日時・場所 2017年10月22日(日)12時半開場、13時~15時
アミューゼ柏 会議室B
(柏市柏6-2-22 柏駅東口徒歩9分)

🍇 講師 当会会長 森伸之 (軍事史学会会員)

🍇 参加費 会員：100円、一般：300円(資料代込み)

🍇 その他 申込不要。会場に隣接して駐車場はありますが、有料です。
当会会誌「水辺の城」頒布中。

🍇 問い合わせ メール：info@matsugasakijo.net または Tel. 090-3579-5185 (森)

(平日のお問合せは午後6時以降にお願いいたします)



<小金城跡にて>